

7.3 効果の検証

(1) 客観的検証

本構想を実現するために実施する各事業化プロジェクトへの取組については、その進捗状況の管理と効果の検証を定期的に以下のように行います。

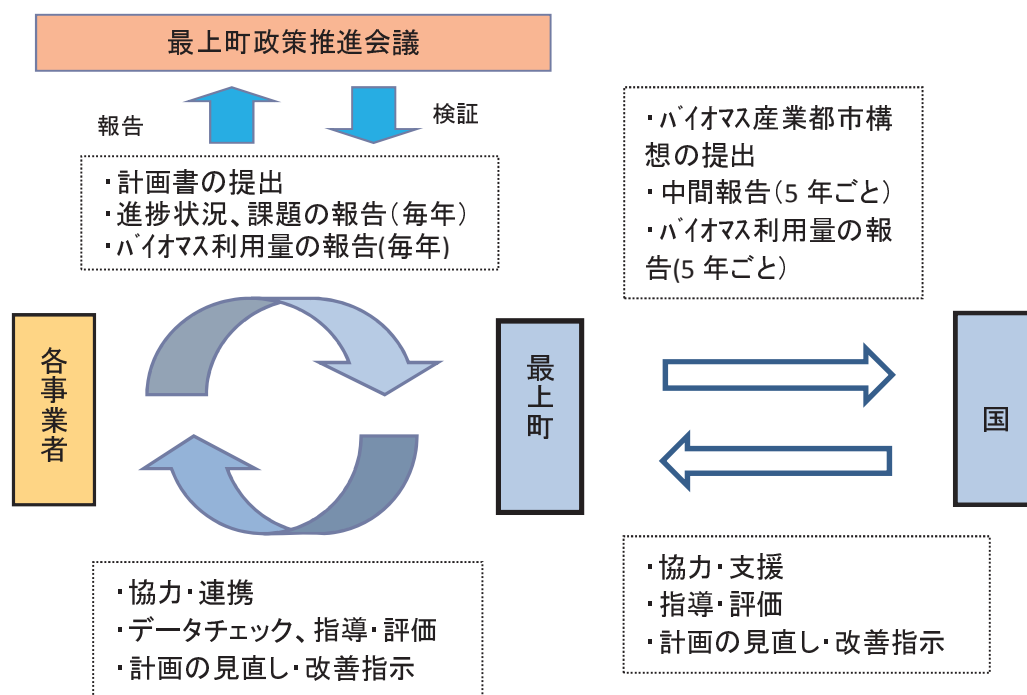


図 7-1 進捗管理及び取り組み効果の検証

検証を行う項目は以下のとおりです。

表 7-4 効果の検証項目

	1. 森林系バイオマス高度利用プロジェクト	2. 農業系バイオマス循環利用プロジェクト	3. 廃棄物系バイオマス循環利用プロジェクト
リサイクル量		○	○
廃棄物の削減量		○	○
エネルギー生産量	○	○	○
森林整備面積	○		
防災・減災の対策	○	○	○
雇用の創出	○	○	○
経済波及効果	○	○	○
CO2 削減量	○	○	○

(2) 中間評価と事後評価

本構想では「森林系バイオマス高度利用プロジェクト」、「農業系バイオマス循環利用プロジェクト」「廃棄物系バイオマス循環利用プロジェクト」の3つの分野で計7つの重点施策を検討しています。

これらの事業が実際に推進されるために、図7-1に示すように「最上町政策推進会議」が、毎年の進捗状況を検証し、計画の中間年である平成32年に中間評価を、計画が終了する平成36年度には事後評価を実施します。

① 中間評価

計画期間の中間年となる平成32年に中間評価を実施します。

○バイオマスの種類別利用状況

表2-1で整理したバイオマスの種類ごとに、5年経過時点での賦存量、利用量、利用率を整理します。

これらの数値はバイオマス活用施設における利用状況、廃棄物処理施設の受け入れ実績、事業者への聞き取り調査、各種統計資料等を利用して算定します。

継続的に検証し、より正確な数値の把握、検証に努めます。

○取組の進捗状況

7-1の取組工程に基づいて7つの重点施策ごとに取組の進捗状況を確認し、利用量が少ない、進捗が遅れている等の場合は、原因や課題を整理します。

○構想の見直しの必要性

進捗状況の確認で抽出された原因や課題に基づいて、必要に応じて目標や取組内容を見直します。

○課題への対応

各取組における課題の対応方針を整理します。

②事後評価

計画期間が終了する平成 36 年を目途に計画終了時点における「バイオマスの種類別利用状況」「取り組みの進捗状況」に加えて、次の項目について評価を実施します。

○指標の設定

バイオマスの利用量・利用率以外に、表 7-4 に基づいて本町の取組の効果を検証します。

○改善措置等の必要性

進捗状況の確認や評価指標による効果測定等により抽出された各取組の課題や問題点、その原因について改善措置等の必要性の検討・整理を行います。

○総合評価

計画期間中の各段階の達成状況の評価や全体の総合評価については、「最上町政策推進会議」が行います。

検討した改善措置等の必要性や社会情勢の変化を踏まえた目標達成の見通し等について検討し、施策に反映します。

8. 他の地域計画との有機的連携

本構想は、町の第4次総合計画「人が元気 地域が元気 産業が元気 キラリ輝く 田園空間博物館の創造」を最上位計画として個別の計画や県の様々な諸施策・計画と連携・整合を図り、バイオマスを生かした持続可能なまちを推進していくものです。

特に平成25年3月に策定された「最上町スマートコミュニティ構想」とは密接に連携して、各分野で調整を図りながら協力推進していくこととなります。

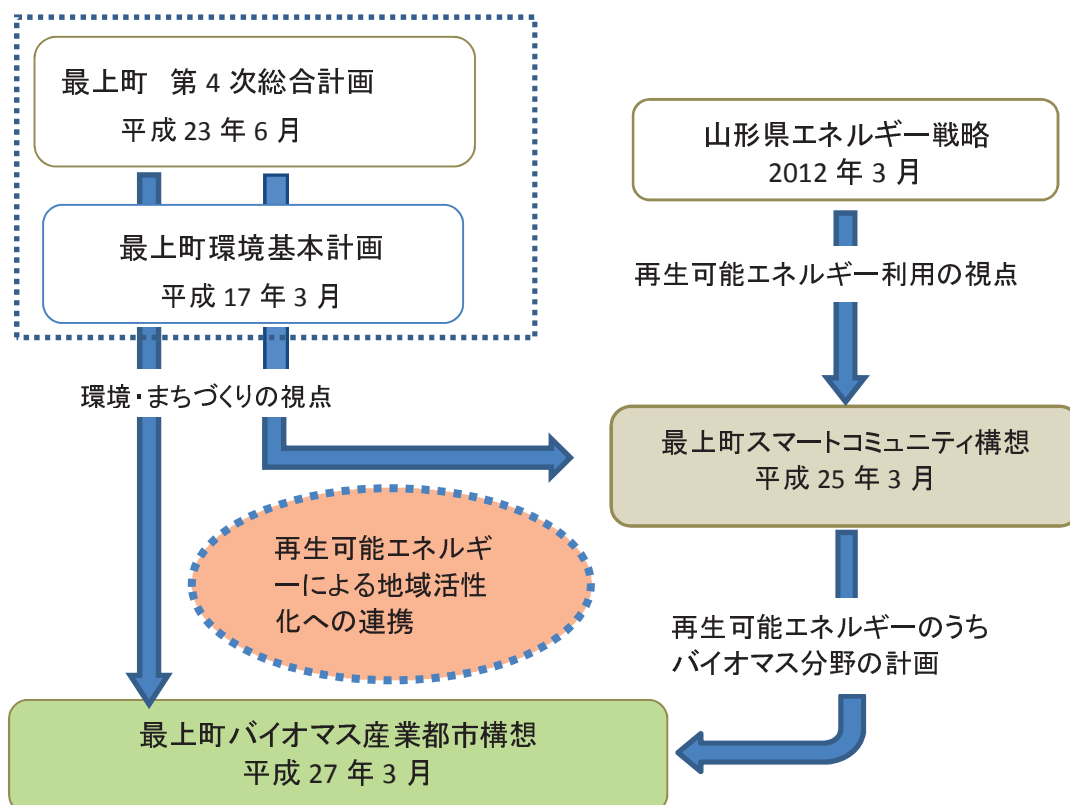


図 8-1 最上町バイオマス産業都市構想の位置付け